

田原市での「地域活力創出事業」第1回の活動を8月4日（日）に実施。

“田原風の保存や活用”について、まずは制作や体験を行いました。



### 田原市に根付く伝統文化「田原風」の体験と普及アイデアの提案

「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」の田原市担当メンバーは、大学生、社会人を含めた10名。愛知県内外からの参加となりました。田原市では、地域に根付いた田原風の伝統文化を「田原風保存会」が中心となって継承してきましたが、後継者づくりが課題となっています。

2024年度は、田原風を体験し、その普及のアイデア提案を行っていただきました。

### 8月4日（日）に、田原市において第一回の活動が実施

第一回となる8月4日（日）は、「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」のメンバーが田原市について知るため、「田原城址」「蔵王山展望台」「吉胡貝塚史跡公園」といった田原市の名所めぐりを行いました。その後、田原市の伝統文化である「田原風」や「山車からくり」が保存・展示されている田原まつり会館に移動、「田原風保存会」の方々にレクチャーをしていただきました。



田原市が位置する愛知県三河地方は日本でも有数の伝統風の宝庫であり、田原市においても、江戸時代初期から続く「初風」と、江戸時代後期から庶民の間で盛んに行われたとされる「けんか風」が継承されています。田原風の特徴は、日本の風のほとんどが縦長で糸目が多いのに対して、田原風は横長で、縦に2本のみ糸目がつけられていることです。不安定な構造ではあるものの、それが田原風の縦横無尽の動きを可能にしています。



「初凧」は、子どもの出生などの祝い事としてつくられるもので、節句の際に「初凧」を揚げる風習がありました。

「けんか凧」は、2チームに分かれて独自の凧印（数字や屋号）を描いた凧をあげ、凧を上空で動かすことで糸を切りあい、より多くの凧が残ったチームが勝つという「けんか凧合戦」を行うための凧です。例年5月の第4土・日曜日に、伝統行事として「田原凧まつり」が開催され、多くのチームが参加して「けんか凧合戦」を行っています。

### 初凧づくりを体験した後、凧揚げに挑戦

「あいちの助っ人 地域活力づくり隊」メンバーは、下絵の書かれた初凧の色塗りと組み立てを体験。「自分らしく、自由に表現してください」という田原凧保存会の方からのアドバイスを受け、試行錯誤しながら体験していました。軽快なお話を交えながらの進行だったため笑い声が絶えない体験でしたが、「この骨組みの正確さが、凧が揚がるか揚がらないかのポイント」と言われた際は、メンバー全員が真剣な表情に。思い思いの色で彩られた初凧が完成しました。



続いて、メンバーは、自分たちが作った初凧を持って、凧揚げができる広場へ。まずは初凧を揚げるのに挑戦し、見事に全員が揚げられました。続いて、田原凧保存会の方々と、同保存会が子ども向けに行っている「凧の学校」の夏季特別凧教室に参加している小学生たちにサポートしてもらいながら、「けんか凧」に挑戦。まずは揚げることから始まり、続いて自分の思いとおりに動かすことができるようになるまで指導を受けました。

続いて、メンバーは、自分たちが作った初凧を持って、凧揚げができる広場へ。まずは初凧を揚げるのに挑戦し、見事に全員が揚げられました。続いて、田原凧保存会の方々と、同保存会が子ども向けに行っている「凧の学校」の夏季特別凧教室に参加している小学生たちにサポートしてもらいながら、「けんか凧」に挑戦。まずは揚げることから始まり、続いて自分の思いとおりに動かすことができるようになるまで指導を受けました。

多くの参加メンバーにとって久しぶりの凧揚げだったようで、「簡単なように思っていたけど、始めは凧がなかなか揚がらず、揚がったときは感動した」「凧を揚げるだけでなく、自由に動かせることで、大人も十分に楽しめる」といった感想を持ったようです。この喜びに、田原凧のPRのヒントがあると感じたメンバーもいました。



凧揚げをしながら、田原市の地元の方々との交流も深まり、とにかく楽しめた様子の参加メンバーたち。第一回は、参加メンバー自身の体験が中心となりました。